

霧島市
ふるさと創生人口ビジョン
(令和 2 (2020) 年改訂版)
(案)

霧島市

【目 次】

はじめに	1
○ 2015 年国勢調査結果による推計人口等の変化	
1 人口の推移と将来推計	2
2 年齢3区分別人口の推移	3
3 人口ピラミッドの推移	5
4 世帯の家族類型別一般世帯数の推移	6
5 転入・転出数、出生・死亡数の推移	7
6 合計特殊出生率の推移	8
7 人口移動の状況	9
8 人口ビジョンの策定背景・現状	11
9 霧島市の将来人口推計	14
10 人口の将来展望	15
参考資料 アンケート調査結果	
1 市民へのアンケート	19
2 学生へのアンケート	25
5 事業者へのアンケート	30
6 自由意見まとめ	35

【はじめに】

1 目的

本市の人口は2000年の127,912人をピークに減少傾向が続いています。

国立社会保障・人口問題研究所の調査によると、2040年の本市の人口は、約107,000人になると推計されており、ピーク時からわずか40年間で約20,000人も減少することになります。

人口減少が経済活動に負の影響を与えるいわゆる「人口オーナス」は、本市だけに限らず我が国全体の問題であり、我が国の人口も2008年の約1億2,800万人をピークに減少局面に突入し、2060年には1億人を割り込み9,200万人程度になると予想されています。

そのような中、国は東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持するため、まち・ひと・しごと創生長期ビジョン（令和元年改訂版）及び第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成31年12月に策定し、今後も継続して取り組むとされました。

本市においても、人口減少社会の克服に向け「第2期霧島市ふるさと創生総合戦略」を策定するとともに、市民や事業者、その他の関係者も一体となって戦略を推進し、地方創生に取り組んでいきます。

その前提条件として、本市の人口の現状や課題、将来人口の推計をまとめたものが、本人口ビジョンになります。

2 対象期間

「地方人口ビジョンの策定のための手引き」（令和元年、内閣府地方創生推進室）によると、対象期間は、国の長期ビジョンの期間である2060年を基本とすることとなっていますので、本人口ビジョンにおきましても、2060年をターゲットにした分析を実施しています。

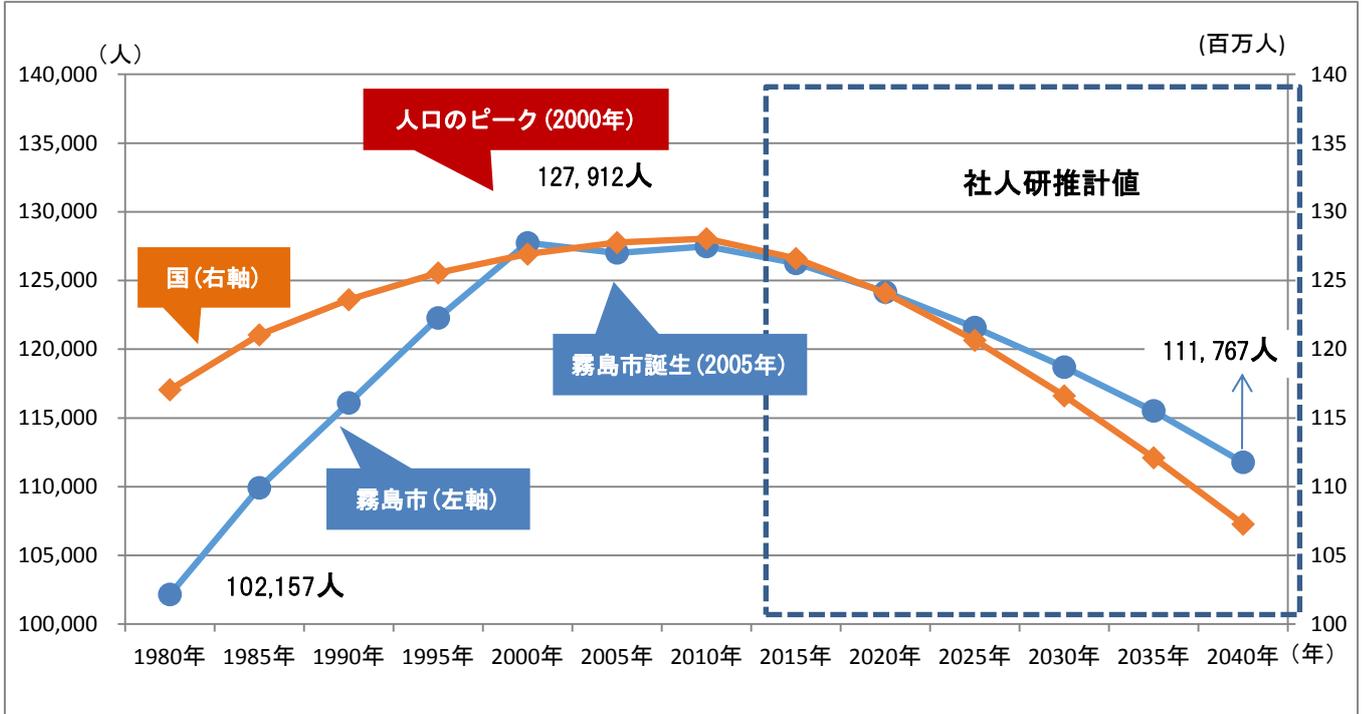
なお、分析に際しては、5年おきに実施される国勢調査のデータを中心としつつ、必要に応じて、国立社会保障・人口問題研究所が提供する将来人口の推計に関するデータを用いました。

○2015 年国勢調査結果による推計人口等の変化

1 人口の推移と将来推計

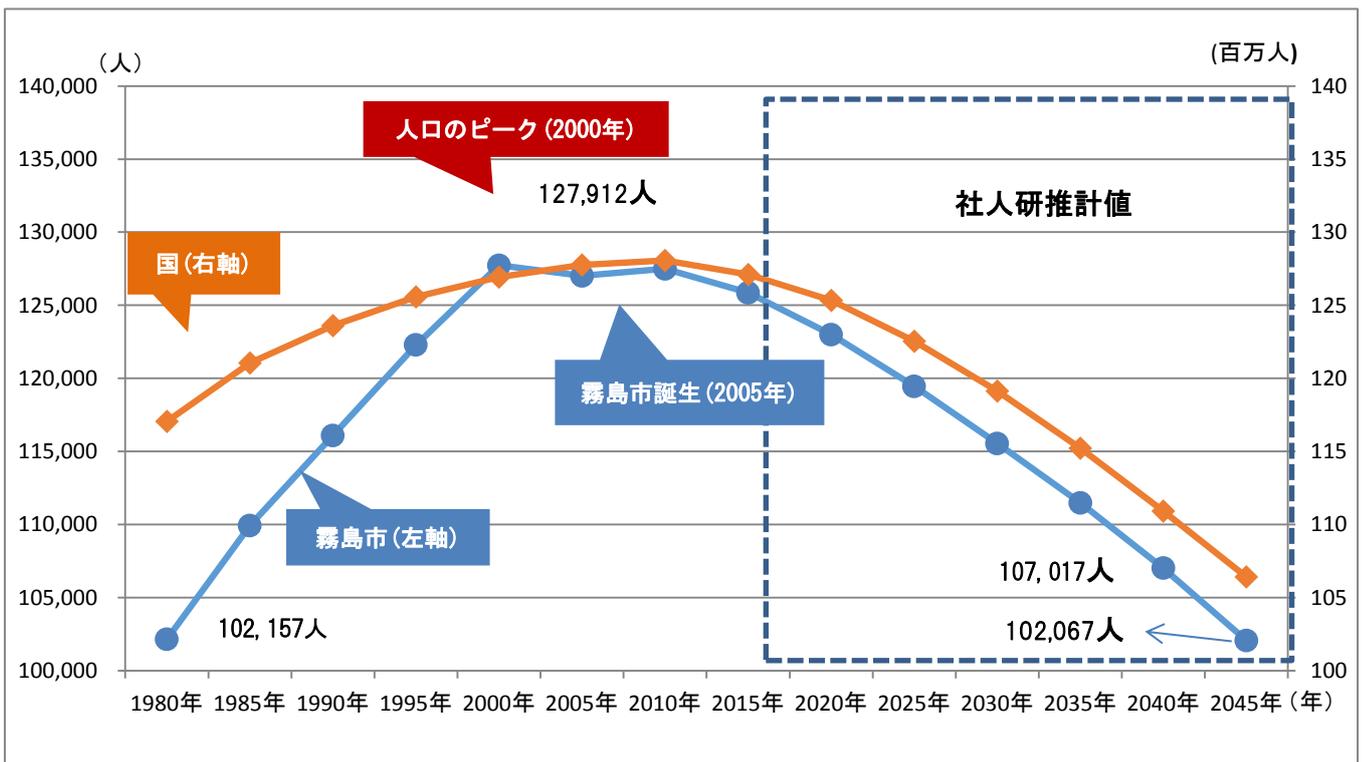
本ビジョン策定当初（2015 年 10 月）の推計では、2000 年の 127,912 人をピークに減少傾向が続き、2040 年には総人口が約 112,000 人になると推計されていました。2015 年の国勢調査結果に基づく新たな推計では、2040 年に約 107,000 人、2045 年に約 102,000 人と、より人口減少が進むことが想定されます。

【本ビジョン策定当初（2015 年 10 月）の人口推移と将来推計】（2010 年国勢調査に基づく推計人口）



※2010 年までは国勢調査実績値、2015 年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値 以降同様

【2015 年国勢調査に基づく推計】



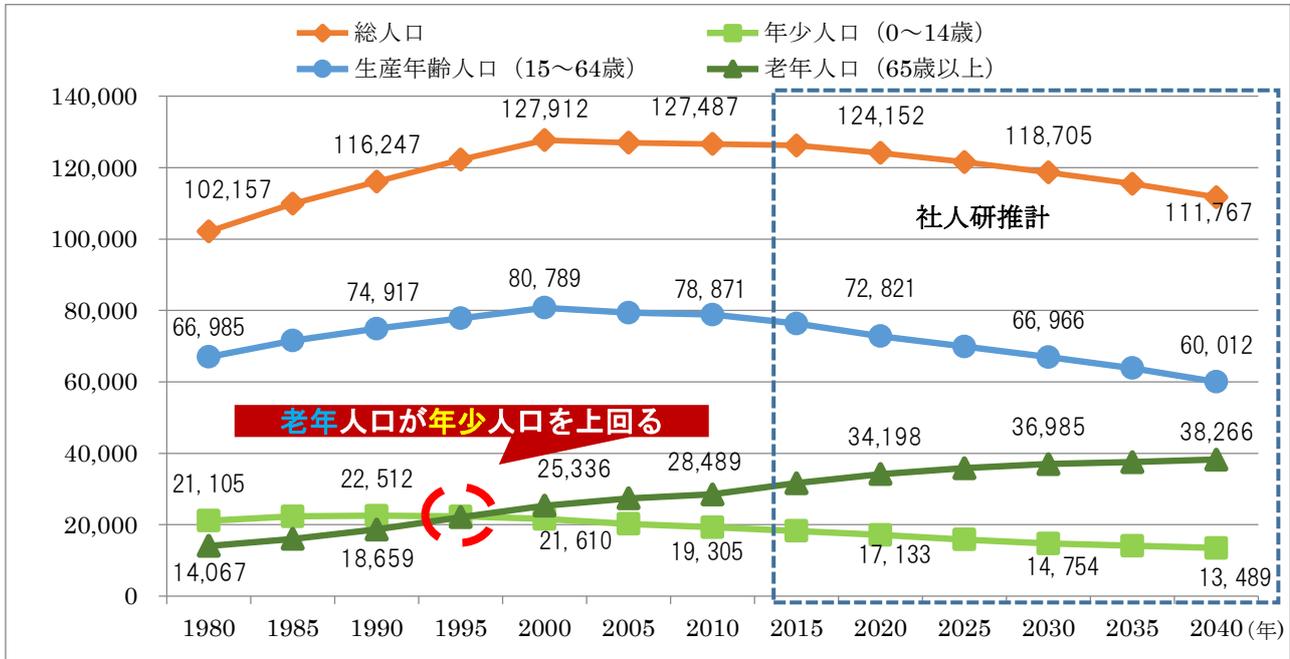
※2015 年までは国勢調査実績値、2020 年以降は国立社会保障・人口問題研究所推計値 以降同様

2 年齢3区分別人口の推移

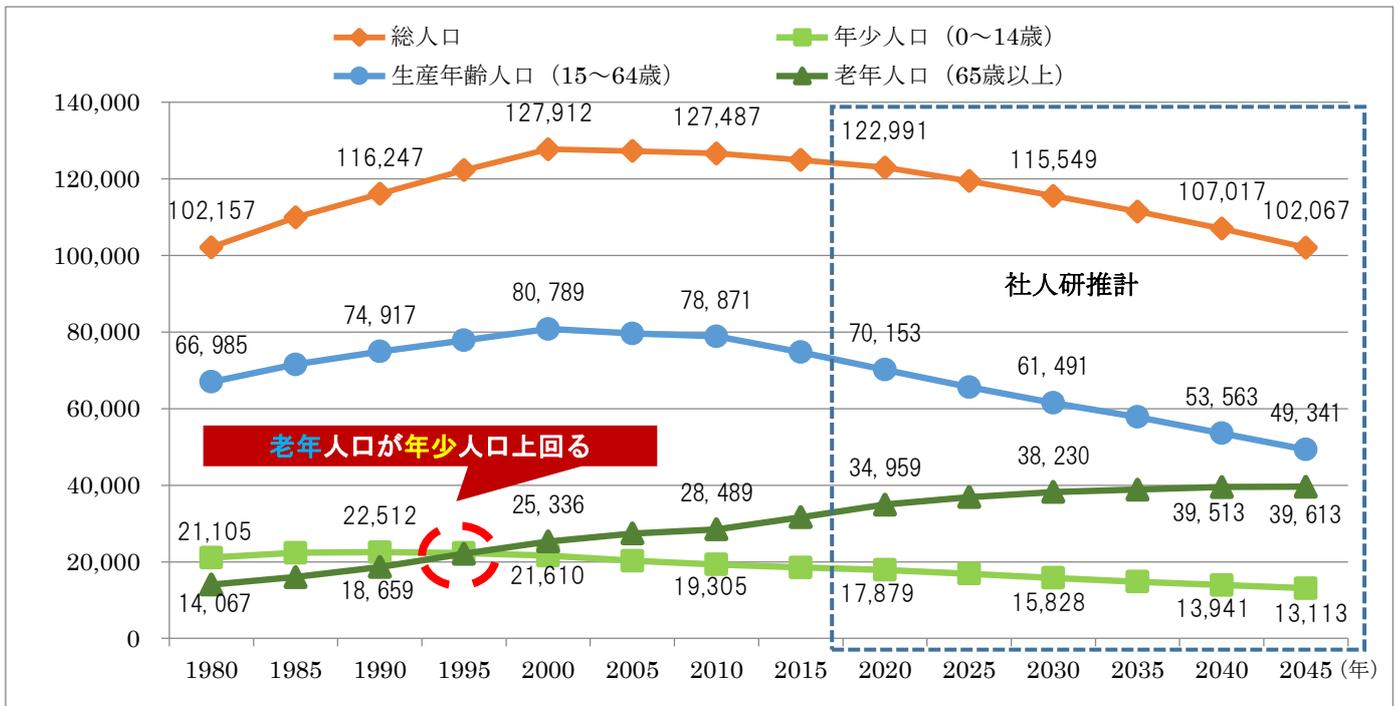
本ビジョン策定当初（2015年10月）の推計では2040年には高齢化率は34.2%となり生産年齢人口約1.57人で1人の老年人口を支えると推計されていました。

2015年国勢調査に基づく推計値の2040年の年齢3区分別人口割合と比較すると、年少人口+0.9ポイント、生産年齢人口▲3.6ポイント、老年人口+2.7ポイントとなり、高齢化率は2040年で36.9%、2045年には38.8%で生産年齢人口約1.25人で1人の老年人口を支えると推計されます。

【本ビジョン策定当初（2015年10月）の年齢3区分別人口の推移】

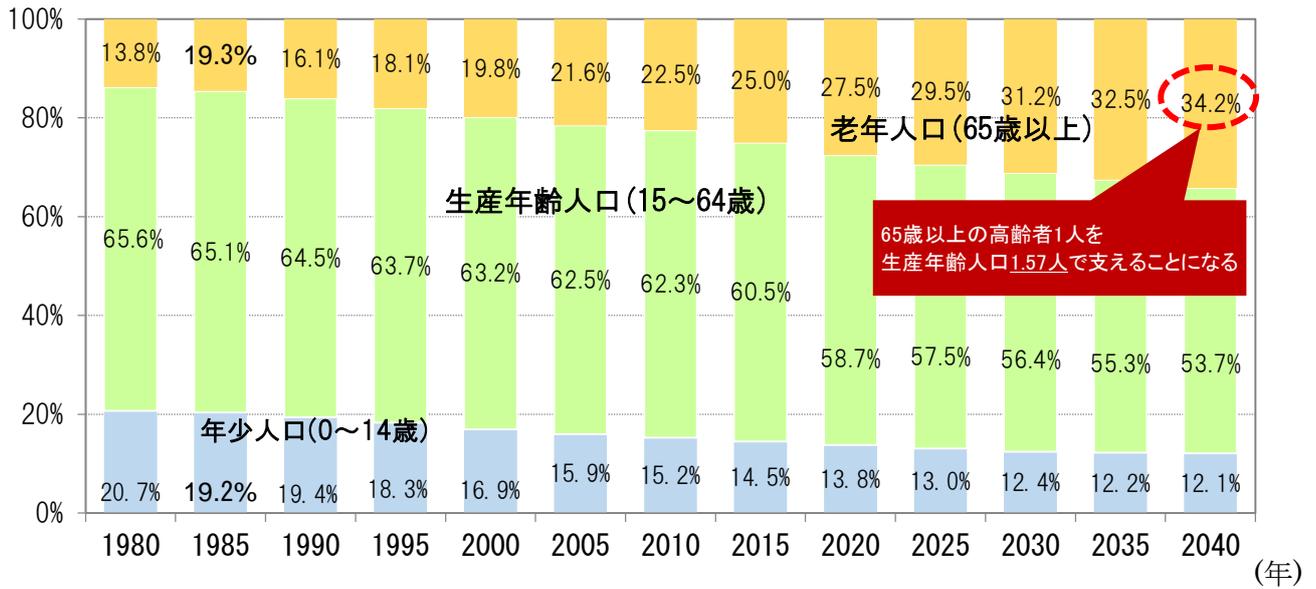


【2015年国勢調査に基づく推計】

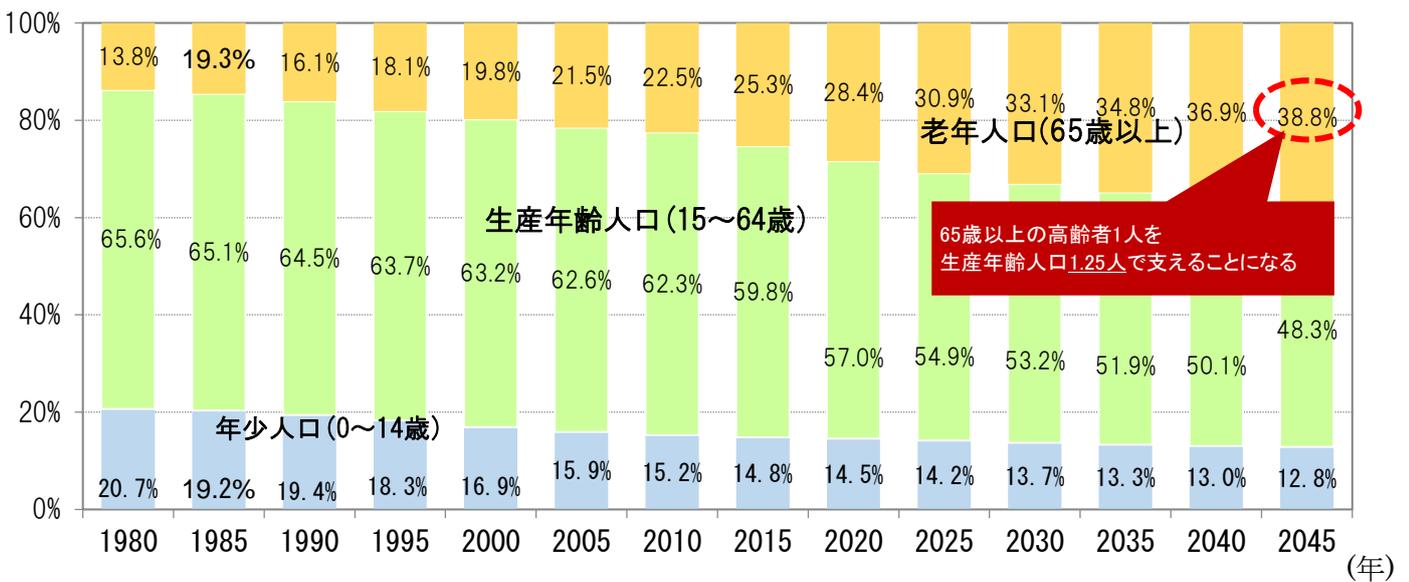


・年齢3区分別人口割合の推移

【本ビジョン策定当初（2015年10月）の年齢3区分別人口割合の推移】



【2015年国勢調査に基づく推計】

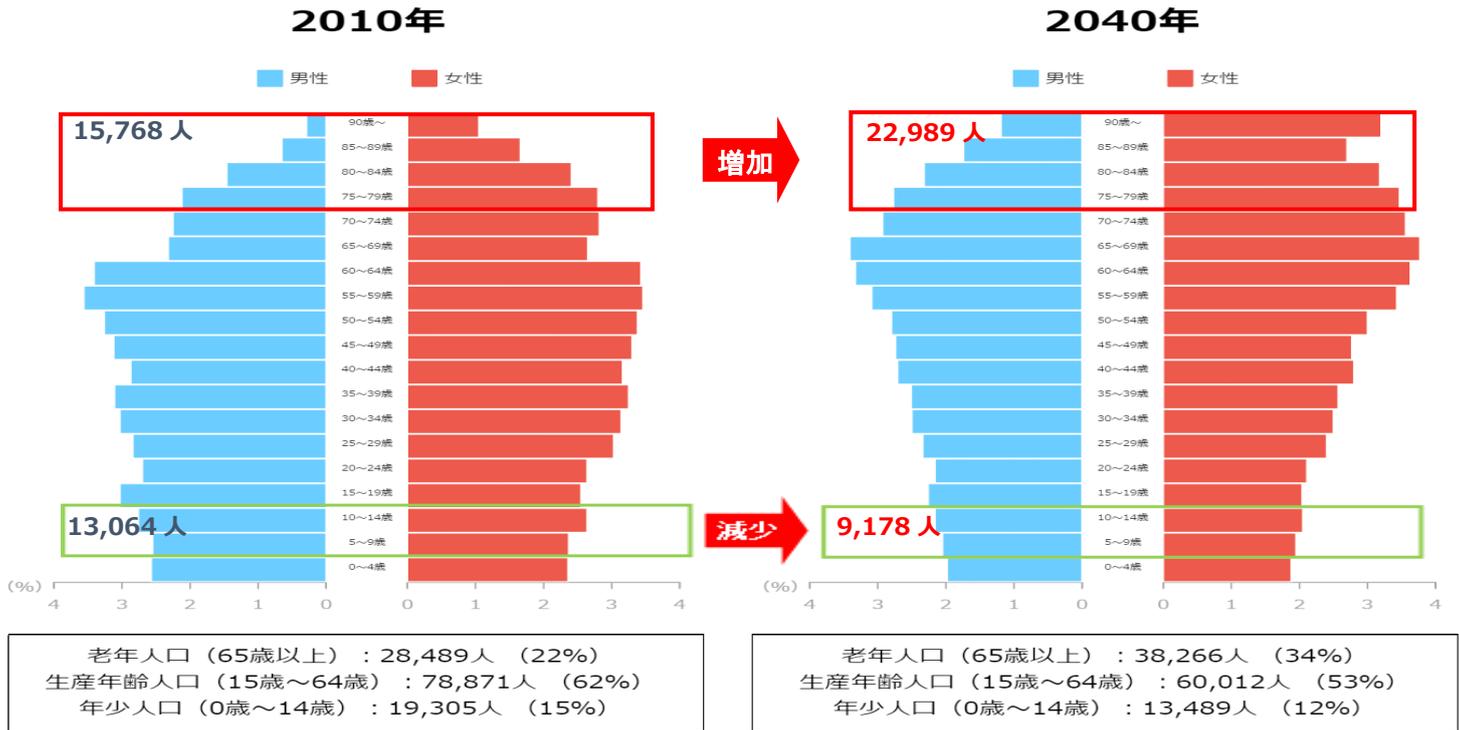


3 人口ピラミッドの推移

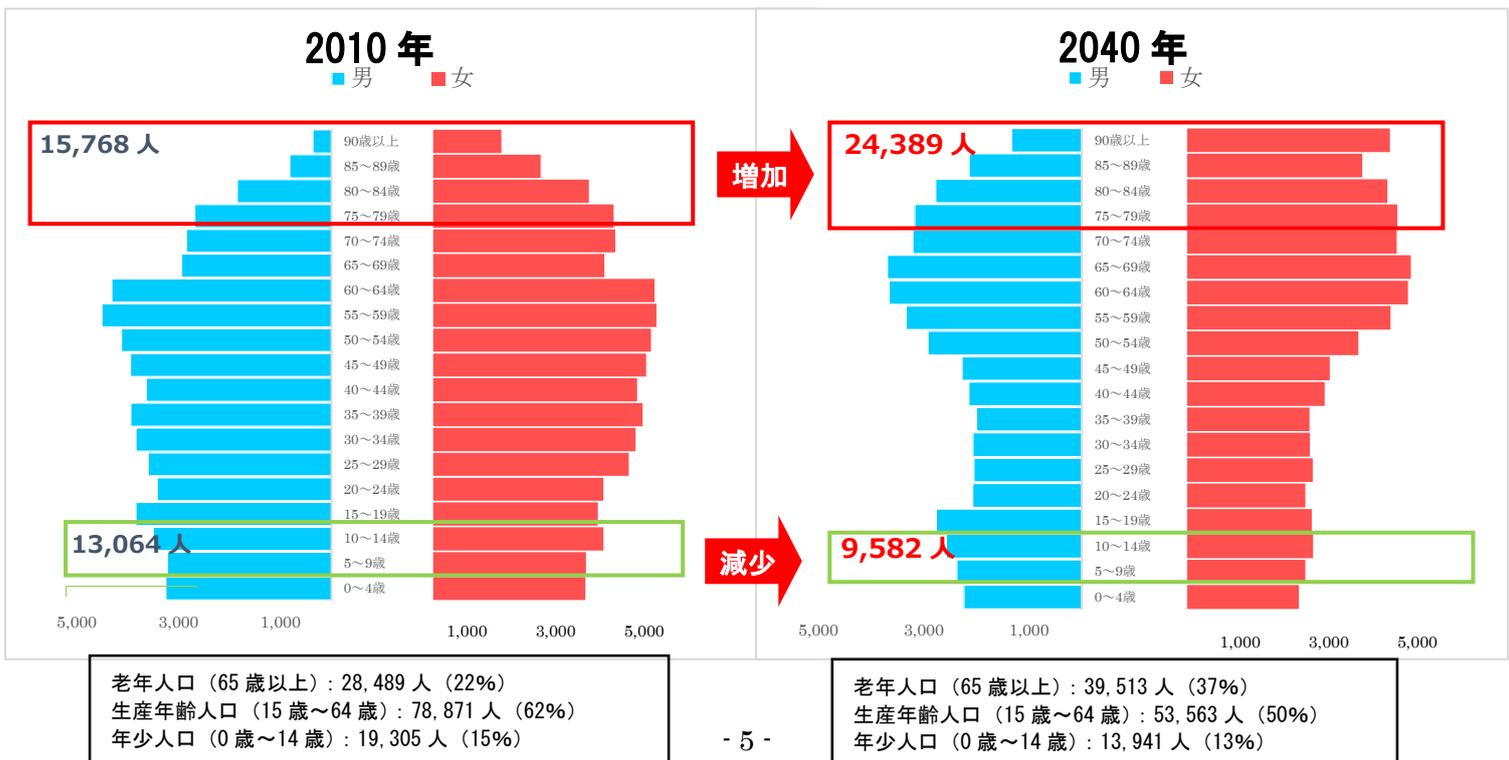
本ビジョン策定当初（2015年10月）の推計では、5歳～14歳の年齢層において2010年時点の13,064人から2040年時点には9,178人に減少すると推計されていました。一方、2015年の国勢調査に基づく推計では、13,064人から9,582人に減少し、本ビジョン策定当初（2015年10月）の推計より減少幅が小さくなるものと推計されます。

また、75歳以上の人口は、本ビジョン策定当初（2015年10月）の推計では、2010年時点の15,768人から2040年時点には22,989人に増加すると推計されましたが、2015年の国勢調査に基づく推計では、15,768人から24,389人に増加し、本ビジョン策定当初（2015年10月）の推計より増加幅が大きくなるものと推計されます。

【本ビジョン策定当初（2015年10月）の人口ピラミッドの推移】



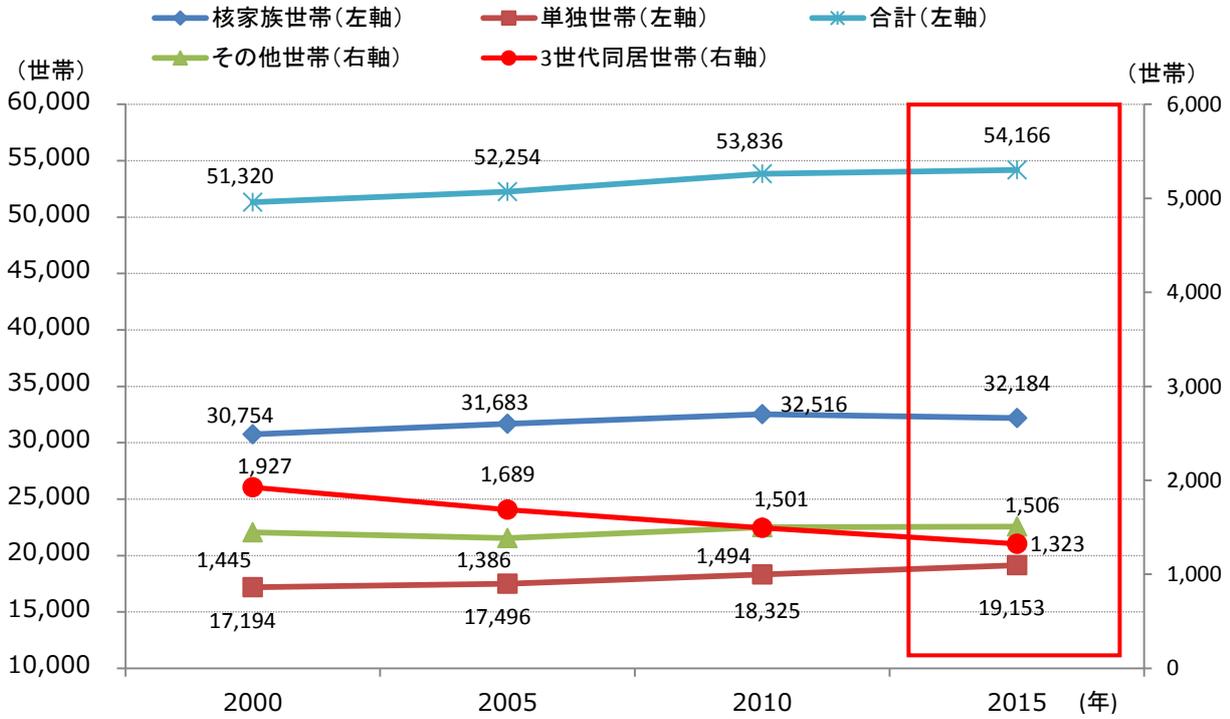
【2015年国勢調査に基づく推計】



4 世帯の家族類型別一般世帯数の推移 ※赤枠：本ビジョン策定当初（2015年10月）以降の推移

本ビジョン策定当初（2015年10月）の推計では、世帯数合計が増加を続ける中で「単独世帯」の増加の要因を「晩婚化と女性の経済的な自立」、「高齢夫婦のみの世帯で、配偶者と死別後に子どもと同居しないケースの増加」が考えられるとしていました。2015年国勢調査の結果においても、「単独世帯」は引き続き増加しており、その要因が継続しているものと考えられます。

【2015年国勢調査結果反映】



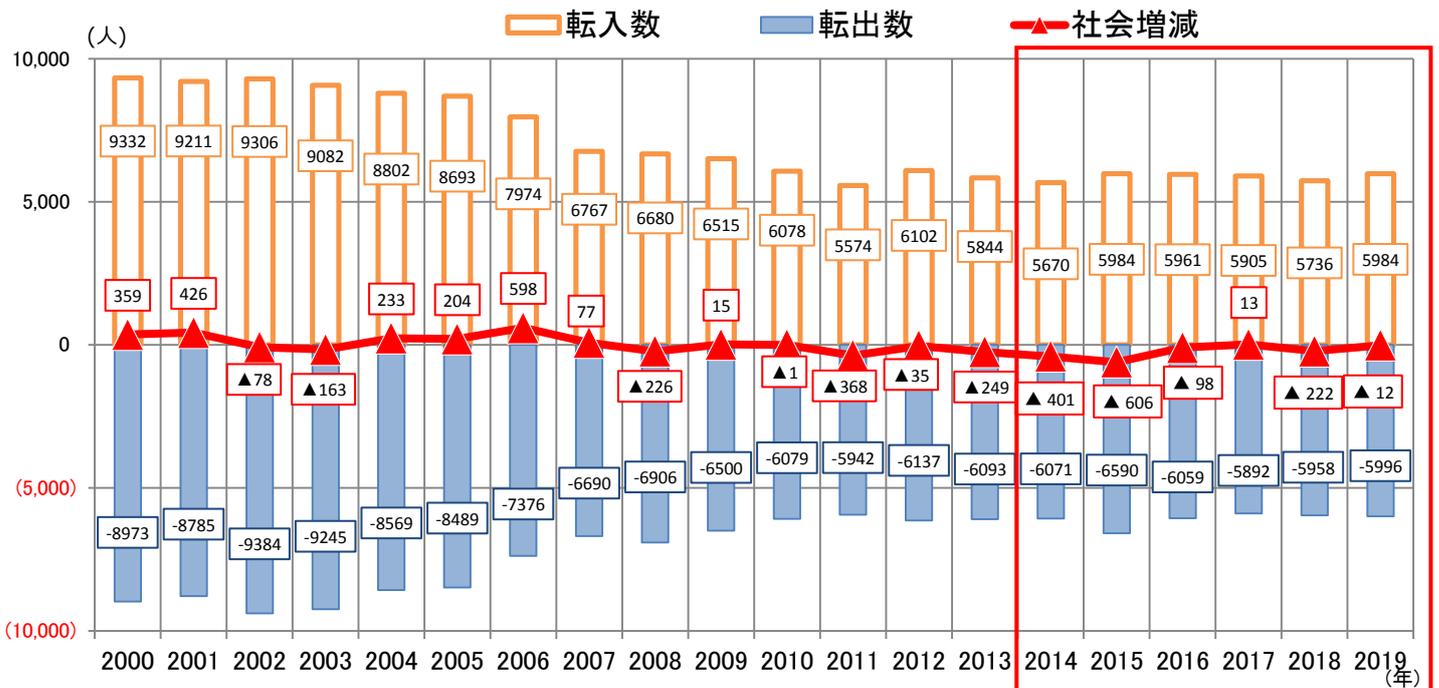
5 転入・転出、出生・死亡数の推移

本市の「転入・転出数」をみると、2010年以降、2017年を除いて転出数が転入数を上回る社会減で推移しています。

また「出生・死亡数」をみても2012年以降は死亡数が出生数を上回る自然減で推移しており、さらに毎年減少幅が拡大しています。

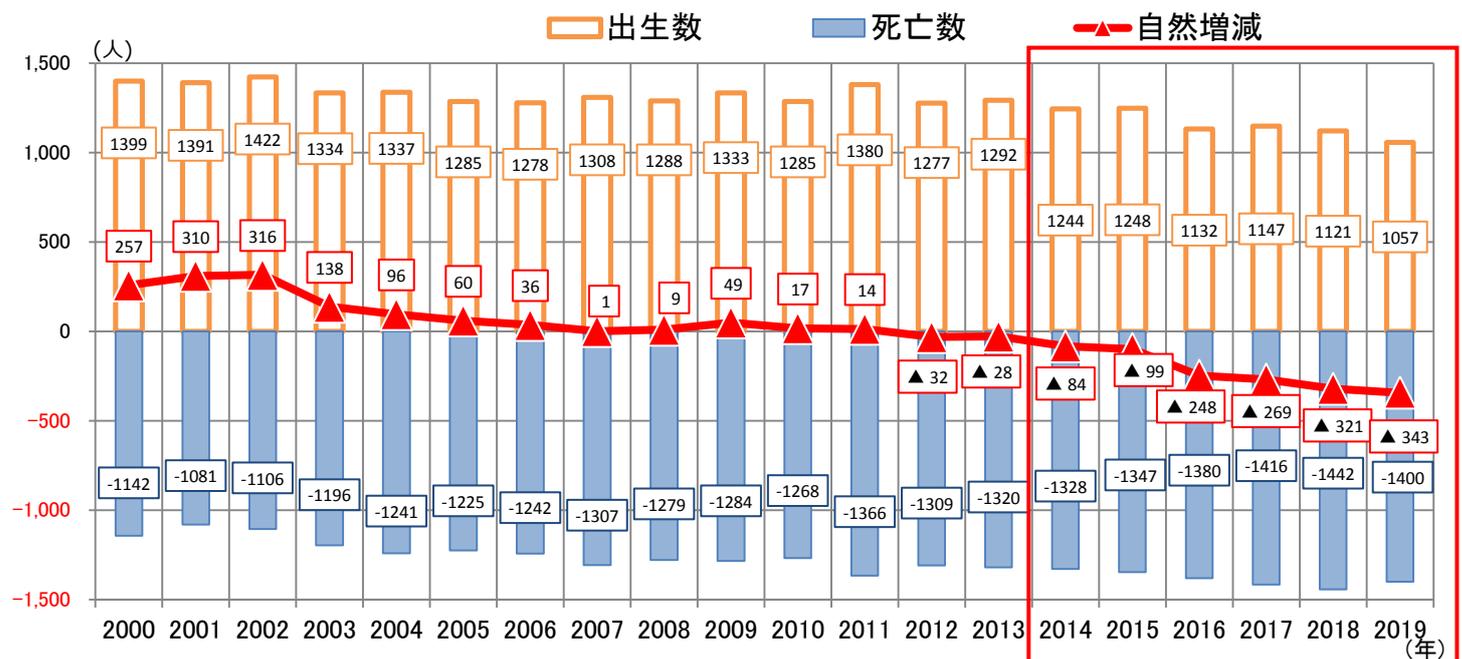
社会減と自然減が同時に起きており、本ビジョン策定当初（2015年10月）の推計と比較しても、自然減の減少幅が大きいことから人口減少は加速しているものと考えられます。

【転入・転出数の推移】※赤枠：本ビジョン策定当初（2015年10月）以降の推移



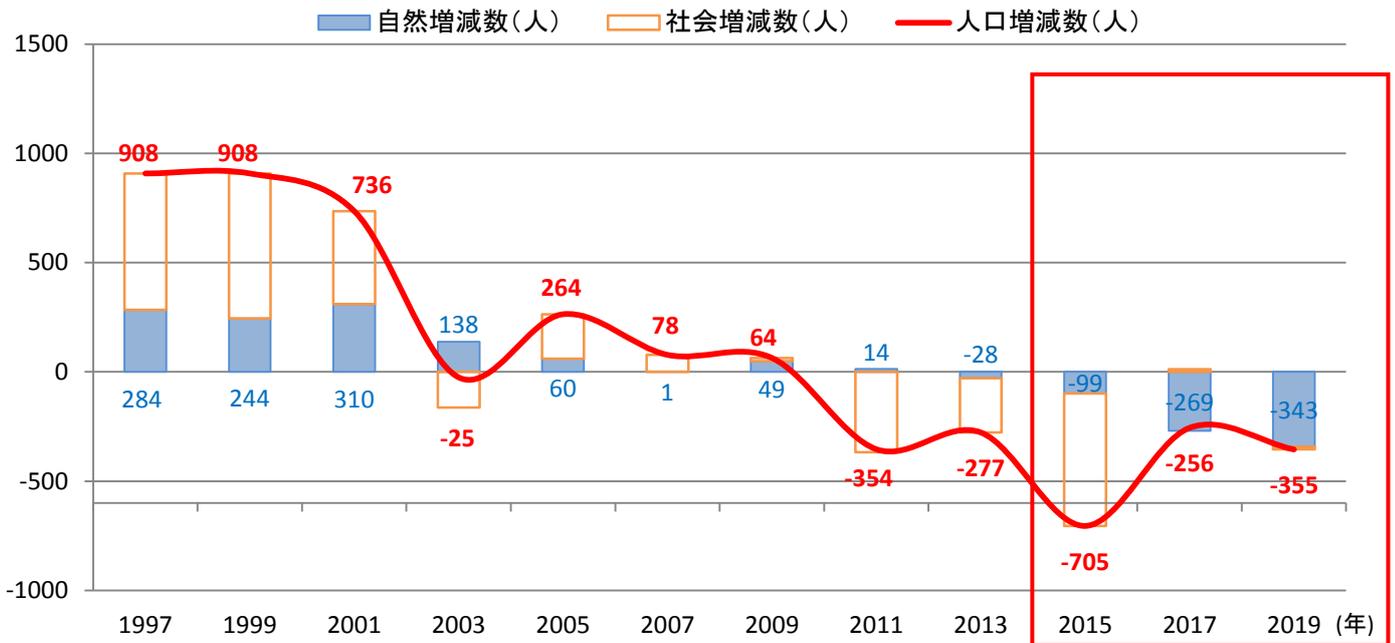
※鹿児島県人口移動調査

【出生・死亡数の推移】※赤枠：本ビジョン策定当初（2015年10月）以降の推移



※鹿児島県人口移動調査

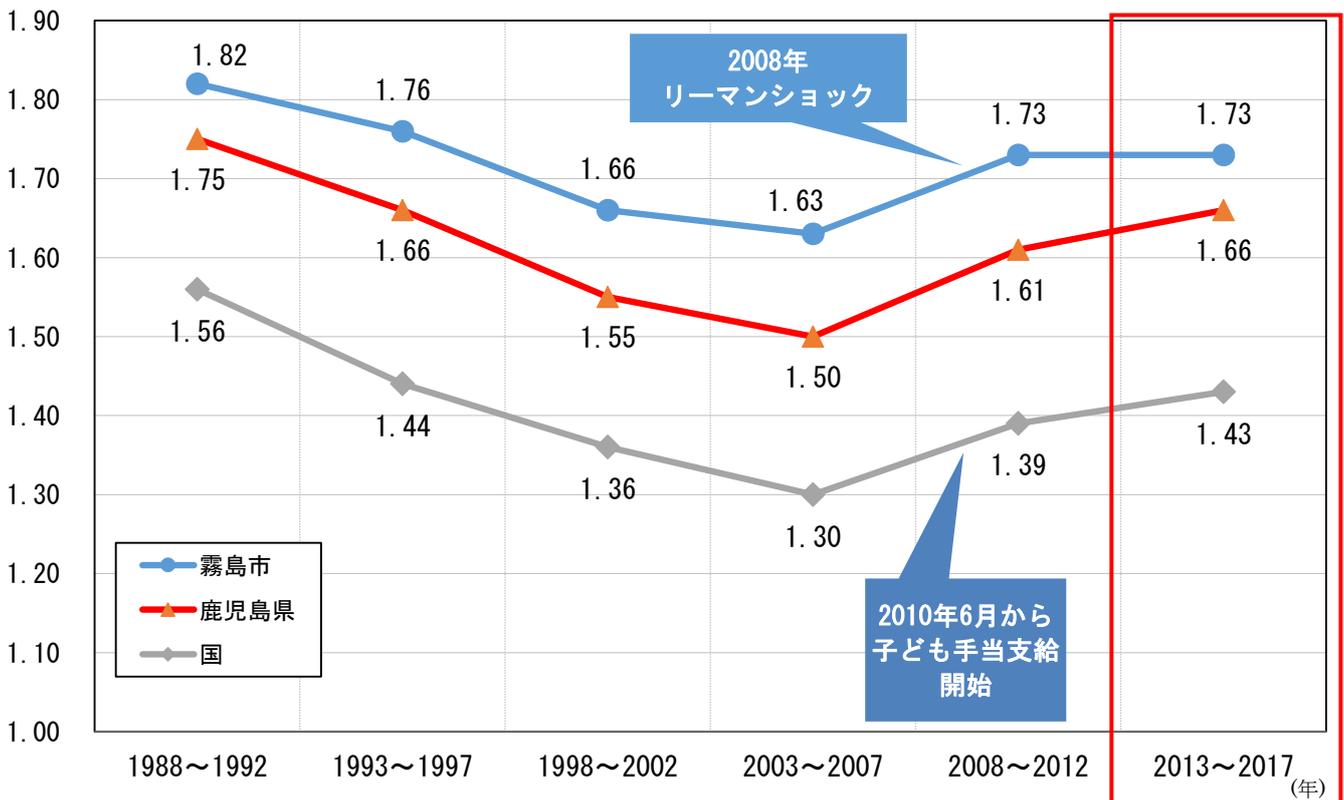
【人口増減数（自然増減数、社会増減数）推移】※赤枠：本ビジョン策定当初（2015年10月）以降の推移



※鹿児島県人口移動調査

6 合計特殊出生率の推移 ※赤枠：本ビジョン策定当初（2015年10月）以降の推移

本市の「合計特殊出生率」をみると、2013～2017年は1.73で、鹿児島県、国と比較しても高い数値となっていますが、鹿児島県、国が回復傾向であるのに対し、2008～2012年は横ばいとなっております。また、全国の出生数については、減少を続けており、2018年の出生数（概数）は過去最小の91万8,397人を記録しています。



※人口動態統計〈厚生労働省〉

7 人口移動の状況

本ビジョン策定当初（2015年10月）の推計においては、2005年から2010年の15～19歳の減少を大学進学等による市外への転出が考えられるとしていましたが、2010年から2015年においても同様の理由において、市外への転出が拡大している状況が考えられます。

また、2005年から2010年の30～59歳の増加を転勤や退職後の移住等が考えられるとしていましたが、2010年から2015年においては、50～59歳では引き続き増加がみられるものの30～49歳では減少傾向に転じており、転勤による転入が少なくなっていることが、その要因として考えられます。

【本ビジョン策定当初（2015年10月）の年齢階級別人口の推移】

（単位：人、％）

年齢	平成 17 年 10 月 1 日 (2005)				平成 22 年 10 月 1 日 (2010)				変化率※		
	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比	総数	男	女
総数	127,012	61,253	65,759	100.0	126,665	60,686	65,979	100.0			
0～4歳	6,343	3,296	3,047	5.0	6,241	3,255	2,986	4.9			
5～9	6,748	3,453	3,295	5.3	6,226	3,225	3,001	4.9	0.982	0.978	0.985
10～14	7,150	3,688	3,462	5.0	6,838	3,500	3,338	5.4	1.013	1.014	1.013
15～19	8,160	4,484	3,676	6.4	7,074	3,844	3,230	5.6	0.989	1.042	0.933
20～24	7,883	4,053	3,830	6.2	6,764	3,426	3,338	5.3	0.829	0.764	0.908
25～29	7,903	3,955	3,948	6.2	7,438	3,599	3,839	5.9	0.944	0.888	1.002
30～34	8,054	4,025	4,029	6.3	7,814	3,841	3,973	6.2	0.989	0.971	1.006
35～39	7,522	3,608	3,914	5.9	8,055	3,943	4,112	6.4	1.000	0.980	1.021
40～44	8,101	3,937	4,164	6.4	7,644	3,639	4,005	6.0	1.016	1.009	1.023
45～49	8,345	4,096	4,249	6.6	8,126	3,946	4,180	6.4	1.003	1.002	1.004
50～54	8,753	4,479	4,274	6.9	8,402	4,126	4,276	6.6	1.007	1.007	1.006
55～59	8,325	4,183	4,142	6.6	8,897	4,513	4,384	7.0	1.016	1.008	1.026
60～64	6,336	2,986	3,350	5.0	8,657	4,314	4,343	6.8	1.040	1.031	1.049
65～69	6,711	3,074	3,637	5.3	6,299	2,942	3,357	5.0	0.994	0.985	1.002
70～74	6,951	3,125	3,826	5.5	6,422	2,849	3,573	5.1	0.957	0.927	0.982
75～79	5,969	2,450	3,519	4.7	6,230	2,686	3,544	4.9	0.896	0.860	0.926
80～84	4,133	1,397	2,736	3.3	4,906	1,849	3,057	3.9	0.822	0.755	0.869
85～89	2,296	666	1,630	1.8	2,931	823	2,108	2.3	0.709	0.589	0.770
90歳以上	1,329	298	1,031	1.0	1,701	366	1,335	1.3	0.741	0.550	0.819

ある年齢区分の5年後の人口が増加している場合変化率は1より大きくなる

【2015 年国勢調査結果追加】

(単位:人、%)

年齢	平成 17 年 10 月 1 日 (2005)				平成 22 年 10 月 1 日 (2010)				平成 27 年 10 月 1 日 (2015)				変化率※2005-2010			変化率※2010-2015		
	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比	総数	男	女	構成比	総数	男	女	総数	男	女
総数	127,012	61,253	65,759	100.0	126,665	60,686	65,979	100.0	124,930	59,549	65,381	100.0						
0~4歳	6,343	3,296	3,047	5.0	6,241	3,255	2,986	4.9	6,111	3,149	2,962	4.9						
5~9	6,748	3,453	3,295	5.3	6,226	3,225	3,001	4.9	6,123	3,201	2,922	4.9	0.982	0.978	0.985	0.981	0.983	0.979
10~14	7,150	3,688	3,462	5.6	6,838	3,500	3,338	5.4	6,277	3,270	3,007	5.0	1.013	1.014	1.013	1.008	1.014	1.002
15~19	8,160	4,484	3,676	6.4	7,074	3,844	3,230	5.6	6,847	3,688	3,159	5.5	0.989	1.042	0.933	1.001	1.054	0.946
20~24	7,883	4,011	3,872	6.2	6,764	3,418	3,346	5.3	5,335	2,579	2,756	4.3	0.829	0.764	0.908	0.754	0.671	0.853
25~29	7,903	3,955	3,948	6.2	7,438	3,599	3,839	5.9	6,440	3,121	3,319	5.2	0.944	0.888	1.002	0.952	0.911	0.994
30~34	8,054	4,025	4,029	6.3	7,814	3,841	3,973	6.2	7,292	3,526	3,766	5.8	0.989	0.971	1.006	0.980	0.980	0.981
35~39	7,522	3,608	3,914	5.9	8,055	3,943	4,112	6.4	7,749	3,778	3,971	6.2	1.000	0.980	1.021	0.992	0.984	0.999
40~44	8,101	3,937	4,164	6.4	7,644	3,639	4,005	6.0	8,004	3,863	4,141	6.4	1.016	1.009	1.023	0.994	0.980	1.007
45~49	8,345	4,096	4,249	6.6	8,126	3,946	4,180	6.4	7,579	3,600	3,979	6.1	1.003	1.002	1.004	0.991	0.989	0.994
50~54	8,753	4,479	4,274	6.9	8,402	4,126	4,276	6.6	8,060	3,899	4,161	6.5	1.007	1.007	1.006	0.992	0.988	0.995
55~59	8,325	4,183	4,142	6.6	8,897	4,513	4,384	7.0	8,449	4,089	4,360	6.8	1.016	1.008	1.026	1.006	0.991	1.020
60~64	6,336	2,986	3,350	5.0	8,657	4,314	4,343	6.8	9,002	4,536	4,466	7.2	1.040	1.031	1.049	1.012	1.005	1.019
65~69	6,711	3,074	3,637	5.3	6,299	2,942	3,357	5.0	8,509	4,225	4,284	6.8	0.994	0.985	1.002	0.983	0.979	0.986
70~74	6,951	3,125	3,826	5.5	6,422	2,849	3,573	5.1	5,961	2,723	3,238	4.8	0.957	0.927	0.982	0.946	0.926	0.965
75~79	5,969	2,450	3,519	4.7	6,230	2,686	3,544	4.9	5,937	2,547	3,390	4.8	0.896	0.860	0.926	0.924	0.894	0.949
80~84	4,133	1,397	2,736	3.3	4,906	1,849	3,057	3.9	5,323	2,108	3,215	4.3	0.822	0.755	0.869	0.854	0.785	0.907
85~89	2,296	666	1,630	1.8	2,931	823	2,108	2.3	3,651	1,185	2,466	2.9	0.709	0.589	0.770	0.744	0.641	0.807
90歳以上	1,329	298	1,031	1.0	1,701	366	1,335	1.3	2,281	462	1,819	1.8	0.741	0.550	0.819	0.778	0.561	0.863

ある年齢区分の5年後の人口が増加している場合変化率は1より大きくなる

8 人口ビジョンの策定背景・現状

(策定背景)

- ・平成 27 年度 10 月策定
- ・国が東京圏への人口の過度の集中を是正し、それぞれの地域で住みよい環境を確保して、将来にわたって活力ある社会を維持していくため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と同時に各自治体に策定を求めたもの。

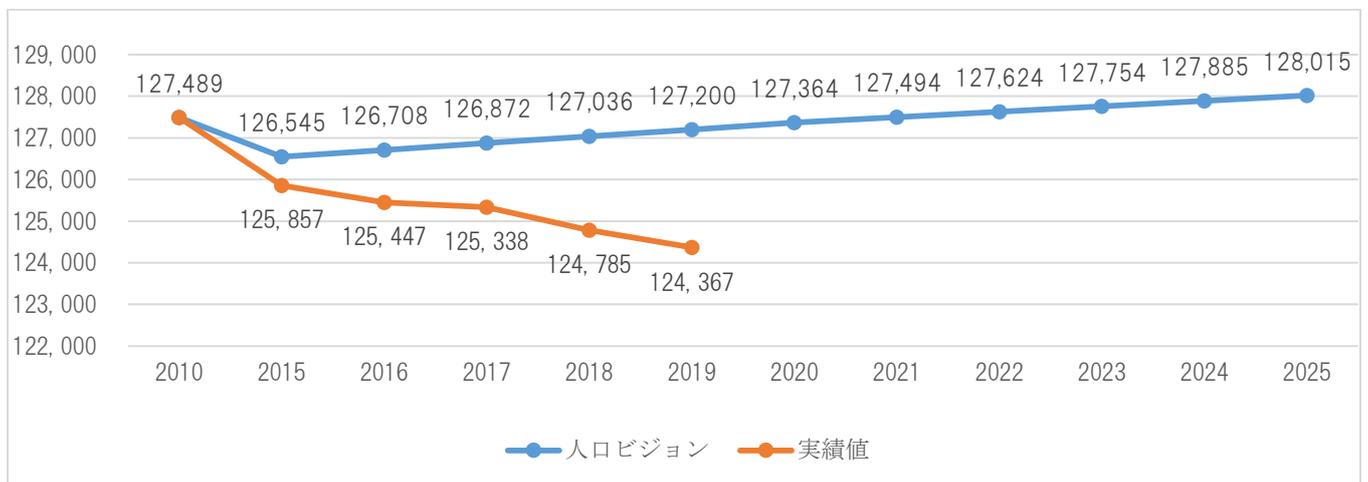
(本市人口目標)

本市の総合戦略では、「霧島市ふるさと創生人口ビジョン」で推計した将来の人口推計を踏まえ、2060 年において、本市の人口を 13 万人とすることを目標としています。(2015 年策定時)

【本ビジョン策定当初（2015 年 10 月）の推計及び現状との乖離状況】

(1) 総人口の乖離状況

人口ビジョン（平成 27 年度）策定時の推計値と実績値は乖離傾向にある。



	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
人口ビジョン	127,489	126,545	126,708	126,872	127,036	127,200	127,364	127,494	127,624	127,754	127,885	128,015
実績値	127,489	125,857	125,447	125,338	124,785	124,367	2.23%減					
乖離	-	-688	-1,261	-1,534	-2,251	-2,833						

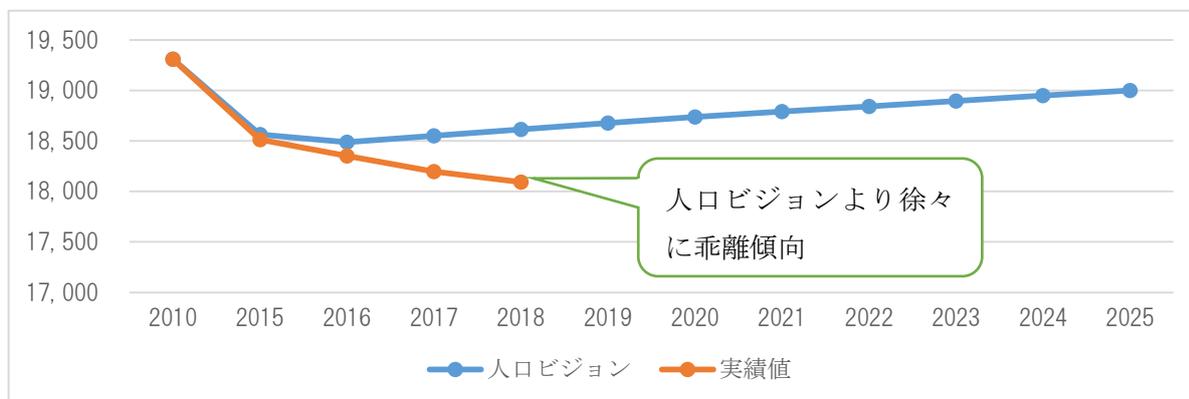
*人口ビジョンの、2016 年から 2019 年までの数値は、2015 年から 2020 年の人口差を各年度で按分した数値

*実績値は、2015 年国勢調査確定値及び 2016 年から 2019 年 10 月 1 日現在の県人口移動調査数値

(2) 年齢別人口の乖離状況

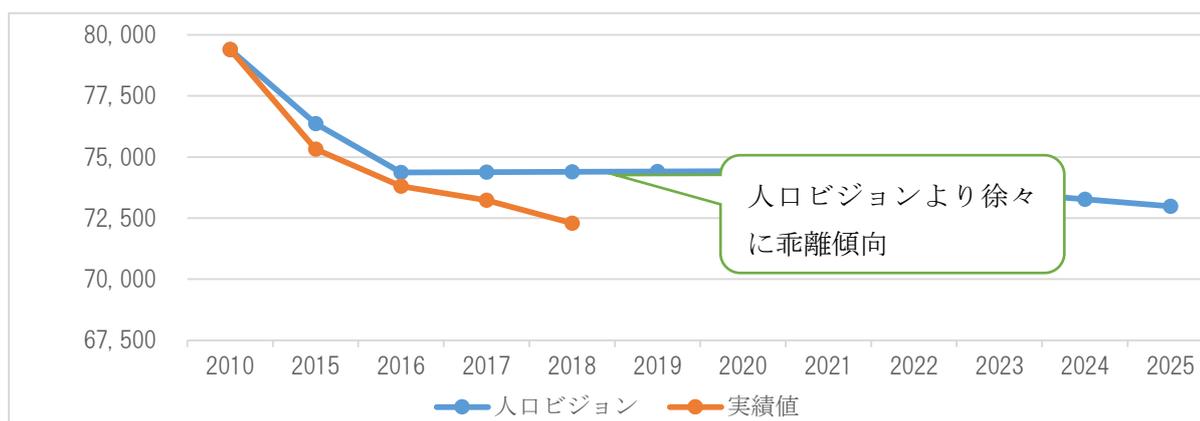
年齢別にみると、年少人口、生産年齢人口は乖離傾向にあり、老年人口はほぼ推計どおり

年少人口（15歳未満）



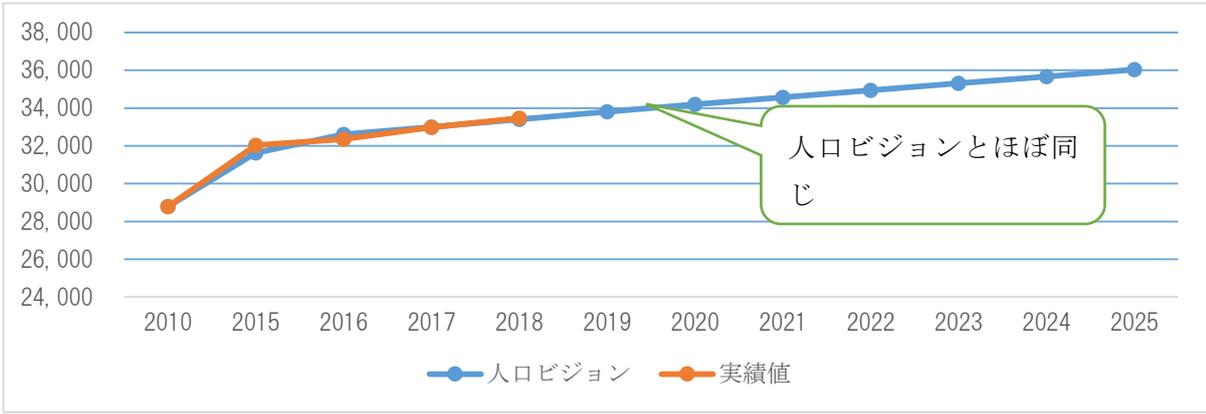
	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
人口ビジョン	19,311	18,563	18,487	18,550	18,613	18,676	18,739	18,791	18,843	18,895	18,948	19,000
実績値	19,311	18,512	18,351	18,198	18,094	-	-	-	-	-	-	-
乖離	-	-51	-136	-352	-519	2.79%減						

生産年齢人口（15～64歳）



	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
人口ビジョン	79,390	76,361	74,361	74,377	74,393	74,409	74,425	74,136	73,846	73,557	73,267	72,977
実績値	79,390	75,321	73,812	73,231	72,296	-	-	-	-	-	-	-
乖離	-	-1,040	-549	-1,146	-2,097	2.82%減						

老年人口（65歳以上）



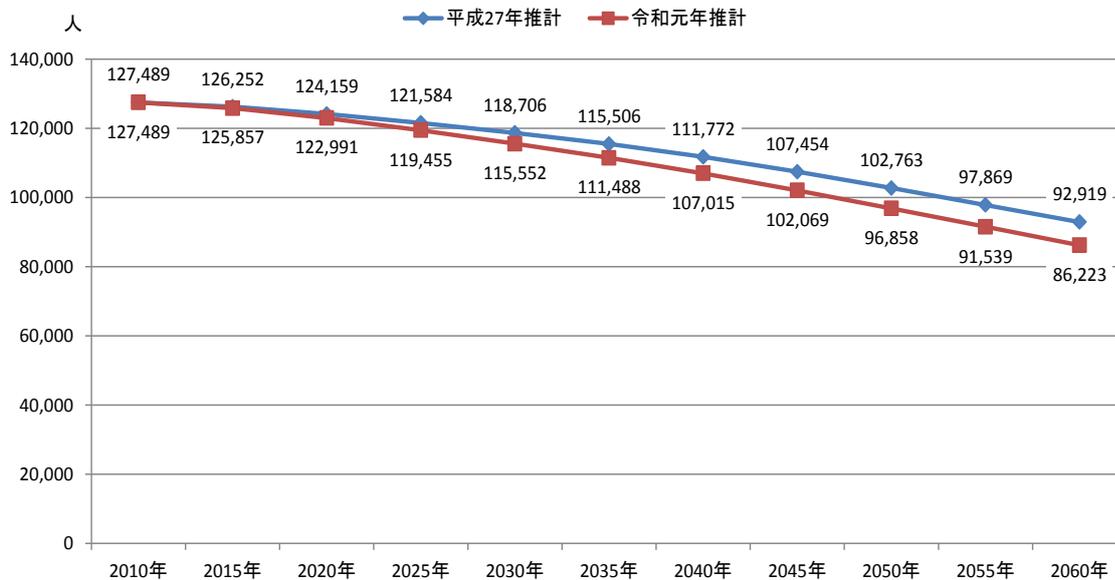
	2010	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
人口ビジョン	28,788	31,620	32,599	32,999	33,399	33,799	34,199	34,567	34,935	35,303	35,670	36,038
実績値	28,788	32,024	32,357	32,982	33,468							
乖離	-	404	-242	-17	69	1%増						

9 霧島市の将来人口推計

平成 27（2015）年と令和元年の推計結果の比較

- ・ 2015 年の人口に関して、平成 27 年の推計値と同年の国勢調査結果を比べてみると、総人口で－395 人の誤差がみられます。5 歳階級別にみると、特に 20～24 歳の誤差が大きく（－942 人）、年少人口（0～14 歳）と老年人口（65 歳以上）はプラスとなっていますが、生産年齢人口（15～64 歳）は－1,040 人と大幅にマイナスとなっています。
- ・ 2060 年の総人口も平成 27 年の推計値よりも約 6,700 人少ない 86,223 人となっています。

【総人口の将来人口推計の比較】



※令和元年度推計は、2018 年に国立社会保障・人口問題研究所から公表された数値に基づき再計算

【5 歳階級別将来人口推計の差（令和元年推計値－平成 27 年推計値）】

男女計	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年	2055年	2060年
総数	0	-395	-1,168	-2,129	-3,154	-4,018	-4,757	-5,385	-5,905	-6,330	-6,696
0～4歳	0	245	515	342	225	127	47	80	163	209	202
5～9歳	0	3	211	495	335	231	143	71	102	183	227
10～14歳	0	-6	18	224	515	358	260	179	105	134	213
15～19歳	0	107	-49	-16	179	474	320	222	143	72	103
20～24歳	0	-942	-1,049	-1,081	-1,010	-790	-457	-534	-584	-611	-629
25～29歳	0	-100	-1,086	-1,221	-1,224	-1,114	-864	-526	-597	-642	-666
30～34歳	0	-46	-203	-1,200	-1,362	-1,338	-1,189	-913	-573	-639	-683
35～39歳	0	2	-88	-239	-1,212	-1,399	-1,362	-1,181	-907	-570	-635
40～44歳	0	-78	-68	-169	-312	-1,208	-1,398	-1,355	-1,176	-900	-564
45～49歳	0	-53	-104	-58	-171	-314	-1,182	-1,388	-1,345	-1,165	-891
50～54歳	0	-63	-125	-178	-69	-157	-311	-1,185	-1,391	-1,348	-1,169
55～59歳	0	45	-39	-139	-200	-26	-90	-255	-1,137	-1,344	-1,305
60～64歳	0	87	139	39	-93	-159	82	18	-162	-1,061	-1,273
65～69歳	0	30	138	174	76	-39	-89	152	82	-101	-993
70～74歳	0	-63	-18	94	127	32	-67	-90	140	72	-102
75～79歳	0	180	71	178	288	292	196	140	132	337	260
80～84歳	0	199	276	172	324	451	433	390	332	339	510
85～89歳	0	134	240	285	201	366	500	545	510	459	478
90歳以上	0	-75	55	168	229	196	271	247	255	246	223
(再掲)0～14歳	0	242	744	1,061	1,075	716	451	330	370	526	641
(再掲)15～64歳	0	-1,040	-2,671	-4,263	-5,475	-6,032	-6,453	-7,099	-7,728	-8,211	-7,713
(再掲)65歳以上	0	404	760	1,072	1,246	1,298	1,245	1,384	1,453	1,354	375
(再掲)75歳以上	0	437	641	804	1,043	1,305	1,401	1,321	1,231	1,382	1,471

10 人口の将来展望

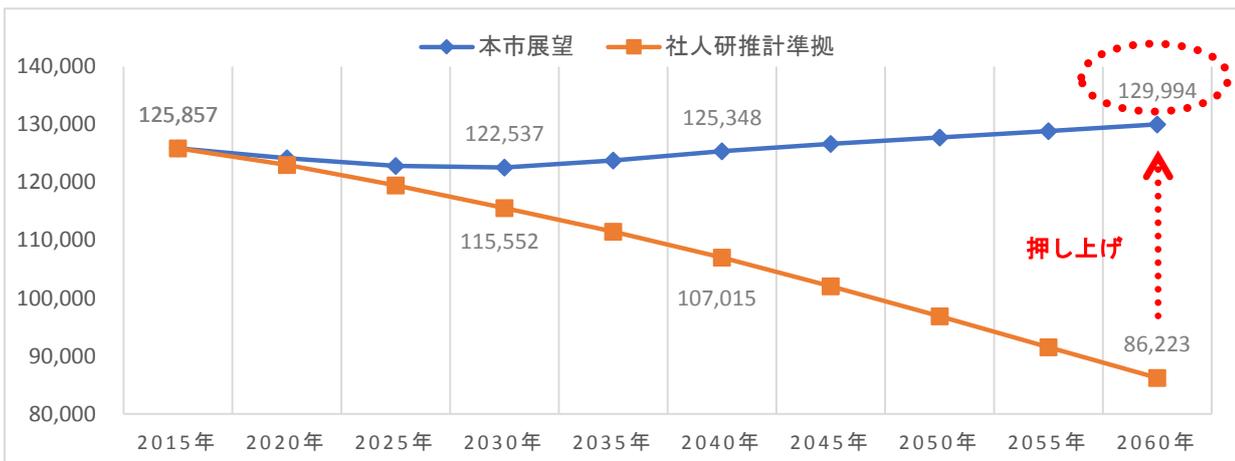
令和元年の推計では、本市の将来人口は2060年に86,223人と推計されていますが、人口減少に対する各施策を展開することにより、合計特殊出生率の向上、移住者の受け入れ、人口流出の抑制などを図り、推計値からの人口の引き上げを目指します。また、地方創生に向けた取組の継続性の観点から、人口目標は本ビジョン策定当初の数値を継承し、2060年において、人口13万人とすることとします。

前提条件（人口減少抑制に向けた取組実施）

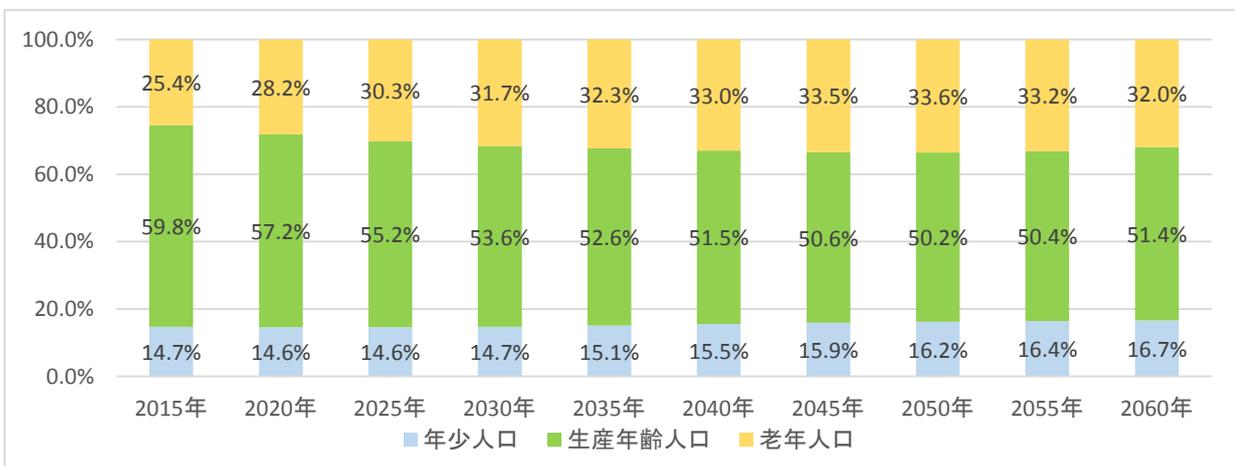
※社人研の推計をベースに、以下の条件を設定。

合計特殊出生率向上	① 基準値（現状）1.73から2025年に1.88に引き上げ。以降は、段階的に引き上げ、2040年に2.1へ。
移住者受け入れ	② 2025年まで毎年120世帯、2030年まで毎年180世帯、2031年以降は毎年260世帯が移住。 移住内訳：「25～44歳」の夫婦、子ども（15歳未満）1人の世帯 55% 「45～64歳」の夫婦世帯。（子どもは移住しない） 35% 「65～74歳」の夫婦世帯。（子どもは移住しない） 10%
人口流出抑制	③ 高校卒業時の就職者の市内就職率 2025年まで40%、2030年まで45%、2035年まで50%、2036年以降60% ④ 大学等（第一工大・短大、高専）卒業時の就職者の市内就職率：2025年まで15%、2030年まで25%、2035年まで30%、2036年以降35%

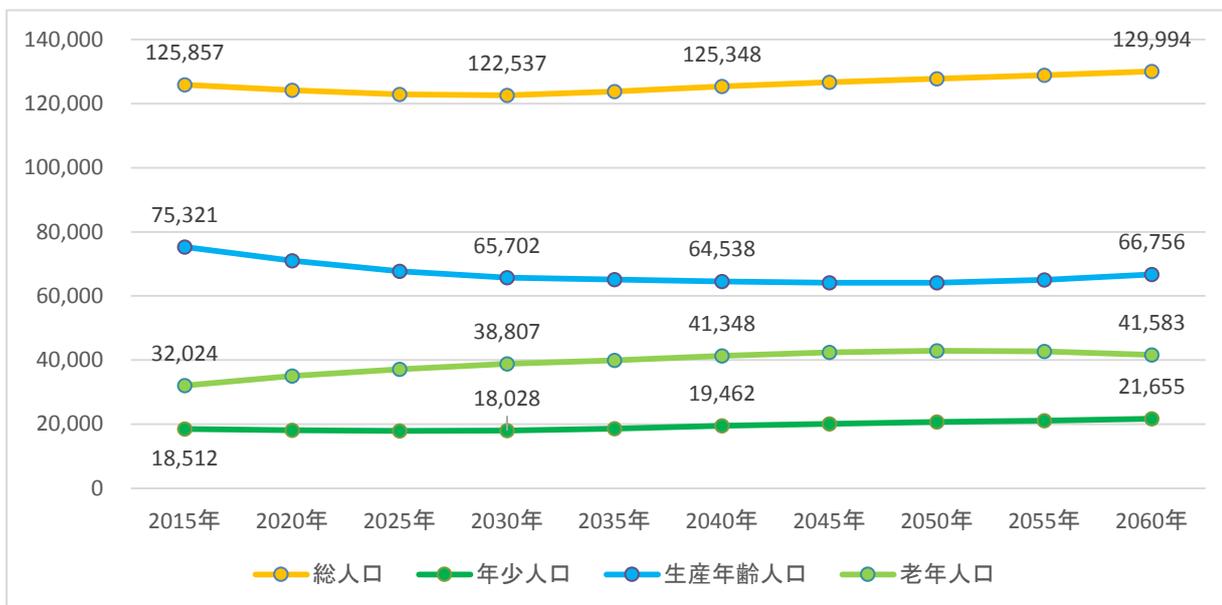
<将来人口の推移>



<年齢3区分別（割合）>



<年齢3区分別人口推移>



<各年齢層における推計結果>

【社人研推計】
2060年 86,223人

【本市展望】
2060年 129,994人

<年少人口>

2015年	2040年	2060年
18,512	13,940	11,016
2015年比	▲ 4,572	▲ 7,496



<年少人口>

2015年	2040年	2060年
18,512	19,462	21,655
2015年比	950	3,143

<生産年齢人口>

2015年	2040年	2060年
75,321	53,563	40,126
2015年比	▲ 21,758	▲ 35,195



<生産年齢人口>

2015年	2040年	2060年
75,321	64,538	66,756
2015年比	▲ 10,783	▲ 8,565

<老年人口>

2015年	2040年	2060年
32,024	39,512	35,081
2015年比	7,488	3,057



<老年人口>

2015年	2040年	2060年
32,024	41,348	41,583
2015年比	9,324	9,559

参考資料

アンケート調査結果